

資料三號

昭和七年五月調

日露戰役以後韓國併合迄ニ於ケル日韓條約關係ノ考察

外務省 亞細亞局

秘

REEL No. 調-0005

日露戰役以後韓國併合迄ニ於ケル日韓條約關係ノ考察

一 日韓條約關係ノ八階梯

二 日韓保護協約及韓國併合條約締結ト第三國ニ對スル通告及宣言

三 韓國併合ノ際ニ於ケル機會均等主義ニ關スル英國側トノ交渉經緯

概要

附。日露戰役以後ノ日韓條約關係一覽表

一 日韓條約關係ノ八階梯

日露戰爭以後ノ帝國ト韓國トノ條約關係ヲ見ルニ大体左記ノ八階梯ヲ經テ順次韓國ニ於ケル帝國ノ地歩ヲ確立シ遂ニ日韓併合ニ至リタリ、即、

(1) 明治三十七年二月ノ日韓議定書（別紙第一）ニ依リ韓國ヲシテ

其ノ施政ノ改善ニ關シ日本ノ忠告ヲ容ルルコトヲ約セシムルト共ニ日本ハ韓國ノ獨立並ニ領土保全ヲ保障シ、又右目的ノ爲韓國ニ於ケル軍事行動ノ自由ヲ獲得ス

(2) 明治三十七年八月ノ日韓協約（別紙第二）ニ依リ韓國ヲシテ日

本人財政顧問ノ招聘ヲ約セシメ、且外交ニ關シテハ日本政府ノ推薦スル外國人顧問ヲ招聘スルト同時ニ條約ノ締結其ノ他重要外交案件ノ處理ニ關シテハ豫メ日本ト商議スヘキヲ約セシム

(3) 明治三十八年十一月ノ日韓協約（別紙第三）ニ依リ韓國ノ外交權ヲ帝國ニ收メ韓國ニ統監(Resident-General)ヲ派シテ外交事務ヲ管理セシメ、又韓國内各地ニ理事官(Resident)ヲ派シ統監指揮ノ下ニ從來日本領事ニ屬シタル一切ノ職權ヲ行ハシムルコトトシ以テ韓國ヲ日本ノ保護國トス

(4) 明治四十年七月ノ日韓協約（別紙第四號）ニ依リ韓國内政ニ對スル統監ノ指導權ヲ確立シ、法令ノ制定、重要ナル行政上ノ處分高等官吏ノ任免ニハ統監ノ同意ヲ要スルコトトセル外、統監ノ推薦スル日本人ヲ韓國官吏ニ任命スルコトトス

(5) 明治四十二年七月ノ韓國中央銀行ニ關スル覺書（別紙第五）ニ依リ韓國中央銀行ハ日韓合併トシ且其ノ重役全部ヲ日本人トス

(6) 明治四十二年七月ノ覺書（別紙第六）ニ依リ韓國ノ司法及監獄

3

事務ヲ日本政府ニ委託セシム

(7) 明治四十三年六月ノ覺書（別紙第七）ニヨリ韓國ノ警察事務ヲ日本政府ニ委託セシム

(8) 明治四十三年八月ノ韓國併合條約（別紙第八）ニヨリ韓國ノ一切ノ統治權ヲ完全且永久ニ帝國ニ讓與セシム

4

二、日韓保護協約及韓國併合條約締結ト第三國ニ對スル通告及宣言  
(一)前記(3)明治三十八年十一月ノ日韓(保護)協約締結ニ際シテハ  
帝國政府ハ同十一月二十三日在英、米、獨、佛、奧、伊、清、  
白、丁ノ九公使ニ訓令シ協約文寫ニ一宣言(別紙第三附録)ヲ  
添附シ之ヲ各任國政府ニ通告セシメタルカ、右宣言ニ於テ帝國  
政府ハ從來第三國カ韓國ト締結セル諸條約ヲ尊重シ且韓國ニ於  
ケル第三國ノ正當ナル商工業上ノ利益ヲ侵害セサルヘキ旨ヲ明  
ニシタリ、  
尙右ノ中米國政府ニ對スル通告ヲナスニ當リテハ同國政府カ他  
ニ卒先シテ其ノ在韓公使館ヲ撤退スルコトヲ希望スル旨口頭ヲ  
以テ申入レタルカ、右ハ日韓(保護)協約ノ文面ニ依レハ或ハ

韓國外交ハ統監ニ於テ在東京外務省ノ指揮監督ヲ受ケ依然京城  
ニテ之ヲ行フモノナルカノ解釋ヲ生スル惧アルモ其ノ實際ノ趣  
旨トスル所ハ

- (イ)爾今韓國ノ外交事務ハ協約第一條ニヨリ東京外務省ニ於テ關  
係列國政府又ハ其在京代表者ト直接ニ之ヲ行フヘク
  - (ロ)在韓國第三國領事トノ交渉其他韓國ト第三國トノ條約實行ニ  
關スル地方的事務ハ協約第三條ニヨリ統監ニ於テ日本理事官  
及韓國官憲ヲ指揮監督シ之ヲ行フヘク
  - (ハ)從テ本協約ノ結果トシテ在京城各國公使館ハ撤退スルノ外ナ  
キコトトナルヘシ
- ト云フニ在ルヲ以テ先ツ米國政府ヲシテ公使館撤廢ノ先鞭ヲ付

ケシメ以テ他ノ各國ニ於テモ漸次同様ノ措置ニ出ツル様取計ヒタルモノナリ。

(二)前記(8)日韓併合條約締結ニ際シテハ關係諸國駐在ノ帝國外交使節ヲシテ條約文寫ニ宣言ヲ附シテ各任國政府ニ通告セシムルト共ニ帝國外務大臣ヨリモ在京關係國代表者ニ對シ條約文寫並ニ宣言ヲ添附シタル公文ヲ以テ通告スルノ手續ヲ採リタルカ(但ベルギーニ對シテハ後者ノ手續ヲ採ラス、又希臘及「コロンビア」ニ對シテハ帝國外務大臣ヨリ直接兩國外務大臣宛公文ヲ發送セリ、蓋シ之等ノ國ハ我國駐在ノ外交使節ヲ有セサリシニ由ル)右公文並ニ宣言ハ二種類ニ分レ

(イ)日本ノ條約國ニシテ且韓國ト條約關係ニアリタル九ヶ國即獨

7

米、澳、白、清、丁、佛、英、伊ノ各國並ニ露國(韓國ニ對シテハ無條約國ナルモ「ポーツマス」條約第二條等ニヨリ韓國ニ於テ最惠國ノ待遇ヲ享クル關係上韓國トノ條約國ト同様ニ取扱ヒタル次第ナリ)ニ對スル公文ニ於テハ日韓併合條約締結セラレタル旨並ニ同條約施行ノ後ハ帝國政府ハ添附ノ宣言書所掲ノ方針ニ依リ韓國ノ施政ヲ爲スヘキ旨ヲ述ヘ該宣言ニ於テハ

(a)韓國ト列國トノ條約ハ當然無効ニ歸シ日本ト列國トノ現行條約ハ其ノ適用シ得ル限り朝鮮ニ適用セラルヘク又朝鮮ニ在留スル諸外國人ハ日本法權ノ下ニ於テ事情ノ許ス限り日本内地ニ於ケルト同一ノ權利及特典ヲ享有シ且ソノ適法ナ

8

ル既得權ノ保護ヲ受クルコト

(b) 現行ノ輸出入税及噸税ヲ十年間据置クヘキコト、又日本朝鮮間ノ移出入貨物ニ對シテモ十年間外國貨物ニ對スルト同一ノ課税ヲナスヘキコト

(c) 十年間日本トノ條約國ノ船舶ニ對シ朝鮮開港間及日鮮開港間ノ沿岸貿易ニ從事スルヲ許スコト

(d) 從來ノ開港場ハ馬山浦ヲ除クノ外舊ニ依リ存置シ更ニ新義州ヲモ開港場トスルコト

ヲ明ニシタリ(公文案日英文並宣言文日英文別紙第八附錄其一參照)

(ロ) 日本ノ條約國ナルモ韓國ト條約關係存セサリシ諸國即アルゼ

ンチン、チリ、コロンビア、ペルー、伯、西、希、墨、諸國、葡、暹羅、瑞典、瑞西ノ十四ヶ國ニ對スル公文ニ於テハ(但「ペルー」ニ對シテハ帝國外務大臣ヨリノ公文ヲ送達セザリシコト上述ノ通)日韓併合條約締結セラレタル旨並ニ帝國ト之等諸國トノ條約ハ添附ノ宣言書所掲ノ通今後適用シ得ル限リ朝鮮ニ適用セララルヘキ旨ヲ述ヘ該宣言ニ於テ爾今日本國ト列國トノ現行條約ハ其ノ適用シ得ル限リ朝鮮ニ適用セララルヘク、該現行條約ヲ有スル列國ノ臣民ハ朝鮮ニ於テ事情ノ許ス限リ日本内地ニ於ケルト同一ノ權利及特典ヲ享有スヘキ旨ヲ明ニセリ(公文案日英文並宣言文日英文別紙第八附錄其二參照)

三 韓國併合ノ際ニ於ケル機會均等主義ニ關スル英國側トノ交渉経緯概要。

韓國ニ於ケル各國ノ商工業上ノ機會均等ニ關シテハ明治三十五年第一回日英同盟條約前文ニ於テ日英兩國政府ハ清國及韓國ニ於テ「各國ノ商工業ヲシテ均等ノ機會ヲ得セシムルコトニ關シ特ニ利害關係ヲ有スル」旨ヲ記シ又明治三十八年第二回日英同盟協約第三條ニ於テモ英國政府ハ韓國ニ於ケル日本ノ政治上、軍事上及經濟上ノ優越權ヲ認メ之カ爲日本カ必要ト認ムル指導、監理及保護ノ措置ヲ執ルノ權利ヲ承認スルモ右措置ハ常ニ列國ノ商工業ニ對スル機會均等主義ニ反セサルコトヲ要スル旨規定セル處、明治四十三年韓國併合ノ機運漸ク熱シ來ルヤ、同年七月十四日英國外務

大臣「サー、エドワード、グレイ」ハ在英加藤大使ニ對シ「韓國ニ於テ日本國ノ勢力ヲ増加スルコトニ付テハ英國政府ニ於テ何等反對スヘキ理由ナキモ經濟上ノ點ヨリ懸念ニ堪ヘサルモノアリ」ト前提シ一國併合ノ結果ハ其國ト第三國トノ間ニ於ケル條約ヲ廢棄セシムル例ナルカ故ニ、今度日本ニ於テ朝鮮ヲ併合スルニ於テハ日本ノ關稅々率ハ朝鮮ニモ行ハルルニ至ルヘキ處之ニ對シテハ英國輿論ノ反對激烈ナルモノアルヘク、又一八九六年佛國カ「マダガスカル」島ヲ併合シ治外法權撤廢ノ通告ヲナシタル際英國之ニ反對シタル行懸モアリ、今日日本カ韓國ヲ併合シテ韓國ト第三國トノ間ノ諸條約ヲ消滅セシメントスルニ當リ米國或ハ大陸方面ヨリ之ニ反對ノ抗議ヲ行フ爲英國ヲ勸誘スルコトモアリ得ヘク其ノ

場合英國ハ誠ニ困難ナル立場ニ陥ルヘシ、若シ日本政府ニ於テ併  
合後モ朝鮮ニ於ケル外國人ノ權利ニ對シテハ何等ノ變動ヲモ加ヘ  
サルヘキ旨宣言セハ最好都合ナルヘク、左ナクハ併合後相當ノ期  
間 ( Considerable period ) 何等之ニ削減ヲ加ヘサル旨ヲ保障  
スルコトヲ得ハ困難ノ程度ヲ減スルコトヲ得ヘシト提議セリ  
右ニ對シ加藤大使ハ政府ニ請訓ノ上同七月十九日「グレイ」外相  
ニ對シ韓國併合後ト雖帝國政府ハ特ニ列國經濟上ノ利害ニ重キヲ  
置キ現状維持ノ見地ヨリ左記ノ三項即、  
(一)朝鮮ト外國間ノ輸出入貨物及朝鮮開港ニ入ル外國船舶ニ對シテ  
ハ當分ノ間輸出入税及噸税ヲ現在ノ儘ニ据エ置キ日本關稅法ヲ  
適用セス

且朝鮮日本間ニ出入スル貨物及朝鮮開港ニ入ル日本船舶ニモ右  
ト同率ノ課税ヲナスコト  
(二)從來ノ韓國開港場ハ馬山ヲ除クノ外依然開港トナシ且新タニ新  
義州ヲ開港中ニ加フルコト  
(三)朝鮮開港間及日鮮開港間ノ沿岸貿易ハ當分ノ外外國船舶ニ許ス  
コト  
ヲ關係國政府ニ宣言スルノ意嚮ナリト説明スル所アリタルカ、其  
際英國外務大臣ノ質問ニ對シ加藤大使ヨリ當分ノ間トハ或ル長期  
間 ( Considerable period ) ノ意ナルコトヲ述ヘタルモ、更ニ  
同外相ヨリ帝國政府ニ於テ一定ノ期間ヲ保證スル都合ナリ  
ヤ否ヤヲ反問セルヲ以テ、加藤大使ハ期間ヲ確定  
スルコトハ頗ル困難ナルモ英國政府ニ於テ一定ノ期間ヲ申出ツルニ



於テハ帝國政府ノ考量ヲ求ムヘキ旨答ヘタリ、  
 右我方説明ニ對シ英國外相ヨリ八月三日附書翰（別紙第九號）ヲ  
 以テ英國政府ハ日本政府カ第三國ノ經濟的利益ニ付現狀維持ノ方  
 針ヲ持スヘキヲ承知シ之ヲ満足トスルト共ニ前記關稅據置ノ期間  
 ハ比島割讓ニ關スル米西條約ノ先例ニモ鑑ミ十年トシ各沿岸貿易  
 許可期間モ同シク十年トスレハ好都合ナリト思考スル旨回答シ來  
 レリ。

右ニ關シ帝國政府ニ於テハ當初本件現狀維持ノ期間ヲ八年トスル  
 ノ意嚮ヲ有シタルモ併合問題全般ニ對スル英國政府ノ好意的態度  
 ニ對シ互讓妥協ノ精神ヲ以テ酬ユルハ大局上有利ナリトノ見地ヨ  
 リ前記英國側希望ノ條件ヲ其ノ儘容レ、結局上述二ノ（二）ノ獨、米、

埃、白、清、丁、佛、英、伊、露ニ對スル宣言トナリタリ。  
 因ニ併合前ニ於ケル韓國外國貿易ノ狀況左ノ如シ、  
 自明治四十年至四十二年、三年間平均

（一）輸入	
日本	四〇、〇〇〇、〇〇〇圓
英國	二五、〇〇〇、〇〇〇圓
清國	五、九〇〇、〇〇〇圓
米國	五、〇〇〇、〇〇〇圓
三、三六〇、〇〇〇圓	
（二）輸出	
日本	一六、〇〇〇、〇〇〇圓
清國	一二、〇〇〇、〇〇〇圓
露國	三、〇〇〇、〇〇〇圓
七七〇、〇〇〇圓	

附。

日露戦役以後ノ日韓條約關係一覽表

一、明治三十七年二月二三日

日韓議定書

二、三七・八・二二

日韓協約

三、三八・一一・一七

日韓保護協約

附・日韓（保護）協約宣言（英文）

四、四〇・七・二四

日韓協約

五、四二・七・二六

韓國中央銀行ニ關スル覺書

六、四二・七・一二

韓國司法及監獄事務委託ニ關スル覺書

ル覺書

七、四三・六・二四

韓國警察事務委託ニ關スル覺書

17

八、四三・八・二二

韓國併合條約

附・韓國併合宣言（日・英兩文）

別紙第一

日韓議定書（明治三十七年二月二十三日調印）

大日本帝國皇帝陛下ノ特命全權公使林權助及大韓帝國皇帝陛下ノ外務大臣臨時署理陸軍參將李址鎔ハ各相當ノ委任ヲ受ケ左ノ條款ヲ協定ス

第一條 日韓兩帝國間ニ恆久不易ノ親交ヲ保持シ東洋ノ平和ヲ確立スル爲大韓帝國政府ハ大日本帝國政府ヲ確信シ施政ノ改善ニ關シ其忠告ヲ容ルル事

第二條 大日本帝國政府ハ大韓帝國ノ皇室ヲ確實ナル親誼ヲ以テ安全康寧ナラシムル事

第三條 大日本帝國政府ハ大韓帝國ノ獨立及領土保全ヲ確實ニ保證スル事

19

第四條 第三國ノ侵害ニ依リ若ハ内亂ノ爲大韓帝國ノ皇室ノ安寧或ハ領土ノ保全ニ危險アル場合ハ大日本帝國政府ハ速ニ臨機必要ノ措置ヲ取ルヘシ而シテ大韓帝國政府ハ右大日本帝國政府ノ行動ヲ容易ナラシムル爲十分便宜ヲ與フル事

大日本帝國政府ハ前項ノ目的ヲ達スル爲軍略上必要ノ地點ヲ臨機收用スルコトヲ得ル事

第五條 兩國政府ハ相互ノ承認ヲ經スシテ後來本協約ノ趣旨ニ違反スヘキ協約ヲ第三國トノ間ニ訂立スルコトヲ得サル事

第六條 本協約ニ關聯スル未悉ノ細條ハ大日本帝國代表者ト大韓帝國外務大臣トノ間ニ臨機協定スル事

20

明治三十七年二月二十三日

特命全權公使 林 權助

光武八年二月二十三日

外務大臣臨時署理陸軍參將 李 址 鎔

21

別紙第二

日韓協約 (明治三十七年八月二十二日調印)

- 一 韓國政府ハ日本政府ノ推薦スル日本人一名ヲ財務顧問トシテ韓國政府ニ傭聘シ財務ニ關スル事項ハ總テ其意見ヲ詢ヒ施行スヘシ
- 一 韓國政府ハ日本政府ノ推薦スル外國人一名ヲ外交顧問トシテ外部ニ傭聘シ外交ニ關スル要務ハ總テ其意見ヲ詢ヒ施行スヘシ
- 一 韓國政府ハ外國トノ條約締結其他重要ナル外交案件即外國人ニ對スル特權、讓與若ハ契約等ノ處理ニ關シテハ豫メ日本政府ト協議スヘシ

明治三十七年八月二十二日

特命全權公使 林 權助 (印)

光武八年八月二十二日

外部大臣署理 尹 致 昊 (印)

22

別紙第三

日韓協約（明治三十八年十一月十七日調印）

日本國政府及韓國政府ハ兩帝國ヲ結合スル利害共通ノ主義ヲ鞏固ナラシメムコトヲ欲シ韓國ノ富強ノ實ヲ認ムル時ニ至ル迄此目的ヲ以テ左ノ條款ヲ約定セリ

第一條 日本國政府ハ在東京外務省ニ由リ今後韓國ノ外國ニ對スル關係及事務ヲ監理指揮スヘク日本國ノ外交代表者及領事ハ外國ニ於ケル韓國ノ臣民及利益ヲ保護スヘシ

第二條 日本國政府ハ韓國ト他國トノ間ニ現存スル條約ノ實行ヲ全フスルノ任ニ當リ韓國政府ハ今後日本國政府ノ仲介ニ由ラスシテ國際的性質ヲ有スル何等ノ條約若ハ約束ヲナササルコトヲ約ス

第三條 日本國政府ハ其代表者トシテ韓國皇帝陛下ノ閣下ニ一名ノ

23

統監（レジデント、ゼラネル）ヲ置ク統監ハ專ラ外交ニ關スル事項ヲ管理スル爲京城ニ駐在シ親シク韓國皇帝陛下ニ内謁スルノ權利ヲ有ス日本國政府ハ又韓國ノ各開港場及其他日本國政府ノ必要ト認ムル地ニ理事官（レジデント）ヲ置クノ權利ヲ有ス理事官ハ統監ノ指揮ノ下ニ從來在韓國日本領事ニ屬シタル一切ノ職權ヲ執行シ並本協約ノ條款ヲ完全ニ實行スル爲必要トスヘキ一切ノ事務ヲ掌理スヘシ

第四條 日本國ト韓國トノ間ニ現存スル條約及約束ハ本協約ノ條款ニ牴觸セサル限總テ其效力ヲ繼續スルモノトス

第五條 日本國政府ハ韓國皇室ノ安寧ト尊嚴ヲ維持スルコトヲ保證ス

24

右證據トシテ下名ハ各本國政府ヨリ相當ノ委任ヲ受ケ本協約ニ記名  
調印スルモノナリ

明治三十八年十一月十七日 特命全權公使 林 權 助 (印)  
光武九年 十一月十七日 外務大臣 朴 齊 純 (印)

MEMORANDUM APPENDED TO THE RESPECTIVE NOTES ADDRESSED FROM JAPAN TO GREAT BRITAIN, THE UNITED STATES, FRANCE, GERMANY, AUSTRIA-HUNGARY, ITALY, BELGIUM, DENMARK AND CHINA, REGARDING THE CONVENTION OF 1905, BETWEEN JAPAN AND COREA.

MEMORANDUM.

Relations of propinquity have made it necessary for Japan to take and exercise, for reasons closely connected with her own safety and repose, a paramount interest and influence in the political and military affairs of Corea. The measures hitherto taken have been purely advisory, but the experience of recent years has demonstrated the insufficiency of measures of guidance alone. The unwise and improvident action of Corea, more especially in the domain of her international concerns, has in the past been the most fruitful source of complications. To permit the present unsatisfactory condition of things to continue unrestrained and unregulated would be to invite fresh difficulties, and Japan believes that she owes it to herself and to her sincere desire for the general pacification of the Extreme East, to take the steps necessary to

put

put an end once for all to this dangerous situation.

Accordingly, with that object in view and in order at the same time to safeguard their own position and to promote the well-being of the Government and people of Corea, the Imperial Government have resolved to assume a more intimate and direct influence and responsibility than theretofore in the external relations of the Peninsula. The Government of His Majesty the Emperor of Corea are in accord with the Imperial Government as to the absolute necessity of the measure, and the two Governments, in order to provide for the peaceful and amicable establishment of the new order of things, have concluded the accompanying compact.

In bringing this Agreement to the notice of the Powers having treaties with Corea, the Imperial Government declare that in assuming charge of the foreign relations of Corea, and undertaking the duty of watching over the execution of the existing treaties of that country, they will see that those treaties are maintained and respected, and they also engage not to prejudice in any way the legitimate commercial and industrial interests of those Powers in Corea.

別紙第四、

日韓協約（明治四十年七月二十四日調印）

日本國政府及韓國政府ハ速ニ韓國ノ富強ヲ圖リ韓國民ノ幸福ヲ増進セムトスルノ目的ヲ以テ左ノ條款ヲ約定セリ

第一條 韓國政府ハ施政改善ニ關シ統監ノ指導ヲ受クルコト

第二條 韓國政府ノ法令ノ制定及重要ナル行政上ノ處分ハ豫メ統監ノ承認ヲ經ルコト

第三條 韓國ノ司法事務ハ普通行政事務ト之ヲ區別スルコト

第四條 韓國高等官吏ノ任免ハ統監ノ同意ヲ以テ之ヲ行フコト

第五條 韓國政府ハ統監ノ推薦スル日本人ヲ韓國官吏ニ任命スルコト

第六條 韓國政府ハ統監ノ同意ナクシテ外國人ヲ傭聘セサルコト

28

第七條 明治三十七年八月二十二日調印日韓協約第一項ハ之ヲ廢止

スルコト

石證據トシテ下名ハ各本國政府ヨリ相當ノ委任ヲ受ケ本協約ニ記名調印スルモノナリ

明治四十年七月二十四日

統 監 侯 爵 伊 藤 博文（印）

光武十一年七月二十四日

內閣總理大臣勳二等 李 完 用（印）

29



別紙第五

韓國中央銀行ニ關スル覺書

明治四十二年七月廿六日 京城ニ於テ調印並  
交換(日・韓文)  
同年八月十六日 統監府告示  
同年同月廿五日 官報彙報欄掲載

統監府告示第七十六號

日韓兩國政府ハ明治四十二年七月二十六日付ヲ以テ兩國間ニ韓國中  
央銀行ニ關スル覺書ヲ交換セリ其ノ全文左ノ如シ

明治四十二年八月十六日

統監 子爵會禰荒助

韓國中央銀行ニ關スル覺書

日韓兩國政府ハ韓國銀行ノ設立ニ關シ左ノ條款ヲ協定ス

第一條 韓國政府ハ韓國銀行ヲ設立シ之ニ兌換銀行券ヲ發行スルノ

權ヲ與ヘ韓國中央金融機關タルノ業務ニ從事セシムルノ外日本銀  
行ノ委託アルトキハ日本國庫金ノ取扱ヲ爲サシムヘシ

第二條 株式會社第一銀行ノ發行シタル銀行券ハ韓國銀行ノ發行シ  
タルモノト看做シ韓國銀行ハ其ノ鎖却ノ義務ヲ承繼スルモノトス

第三條 韓國銀行ノ株式ハ日韓兩國人ニ限り之ヲ所有スルコトヲ得

第四條 韓國銀行ノ重役ハ當分ノ日本人ヲ以テ之ニ充ツヘシ

第五條 韓國銀行ハ韓國政府持株以外ノ株式ニ對シテ爲スヘキ利益  
配當力年百分ノ六ノ割合ニ達スル迄ハ韓國政府持株ニ對シ利益配  
當ヲ爲スコトヲ要セス

第六條 韓國政府ハ韓國銀行ノ創立後五箇年間ハ同國政府持株以外  
ノ株式ニ對シ百分ノ六ノ割合ノ利益配當ヲ保證スルモノトス

右覺書日韓文各二通ヲ作り之ヲ交換シ後日ノ證トスル爲記名調印ス  
明治四十二年七月廿六日

隆熙三年七月二十六日  
統監子爵 會禰荒助  
内閣總理大臣 李完用

別紙第六

韓國司法及監獄事務委託ニ關スル覺書

明治四十二年七月十二日京城ニ於テ調印並交換(日韓文)

同年同月二十四日統監府告示

同年同月三十一日官報彙報欄掲載

統監府告示第六十六號

日韓兩國政府ハ明治四十二年七月十二日附ヲ以テ兩國間ニ韓國ノ司法及監獄事務ヲ日本政府ニ委託ノ件ニ關スル覺書ヲ交換セリ其ノ全文左ノ如シ

明治四十二年七月二十四日

統監子爵 會禰荒助

覺書

日本國政府及韓國政府ハ韓國司法及監獄事務ヲ改善シテ韓國臣民竝  
在韓國外國臣民及人民ノ生命財産ノ保護ヲ確實ニスルノ目的ト韓國  
財政ノ基礎ヲ鞏固ニスルノ目的ヲ以テ左ノ條款ヲ約定セリ

第一條 韓國ノ司法及監獄事務ノ完備シタルコトヲ認ムルトキ迄韓  
國政府ハ司法及監獄事務ヲ日本政府ニ委託スルコト

第二條 日本國政府ハ一定ノ資格ヲ有スル日本人及韓國人ヲ在韓國  
日本裁判所及監獄ノ官吏ニ任用スルコト

第三條 在韓國日本裁判所ハ協約又ハ法令ニ特別ノ規定アルモノノ  
外韓國臣民ニ對シテハ韓國法規ヲ適用スルコト

第四條 韓國地方官廳及公吏ハ各其ノ職務ニ應シ司法及監獄ノ事務  
ニ付在韓國日本當該官廳ノ指揮命令ヲ受ケ又ハ其ノ補助ヲ爲スコ

第五條 日本國政府ハ韓國ノ司法及監獄ニ關スル一切ノ經費ヲ負擔  
スルコト

右各其ノ本國政府ノ委任ヲ承ケ覺書日韓文各二通ヲ作り之ヲ交換シ  
後日ノ證トスル爲記名調印スルモノナリ

明治四十二年七月十二日  
隆熙 三年七月十二日

臈 監子爵 曾 福 荒助  
内閣總理大臣 李 完 用

別紙第七

韓國警察事務委託ニ關スル覺書

明治四十三年六月二十四日京城ニ於テ調印並交換（日、韓文）  
同 年同月二十五日統監府告示  
同 年七月 四日官報彙報欄掲載

統監府告示第百三十九號

日韓兩國政府ハ明治四十三年六月二十四日付ヲ以テ兩國間ニ韓國ノ警察事務ヲ日本國政府ニ委託ノ件ニ關スル覺書ヲ交換セリ其ノ全文左ノ如シ

明治四十三年六月二十五日

覺書

統監 子爵寺内正毅

日本國政府及韓國政府ハ韓國警察制度ヲ完全ニ改善シ韓國財政ノ基

礎ヲ鞏固ニスル目的ヲ以テ左ノ條款ヲ約定セリ

第一條 韓國ノ警察制度ノ完備シタルコトヲ認ムルトキ迄韓國政府ハ警察事務ヲ日本國政府ニ委託スルコト

第二條 韓國皇宮警察事務ニ關シテハ必要ニ應シ宮内府大臣ハ當該主務官ニ臨時協議シ處理セシムルコトヲ得ルコト

右各其ノ本國政府ノ委任ヲ受ケ覺書日韓文各二通ヲ作り之ヲ交換シ後日ノ證トスル爲記名調印スルモノナリ

明治四十三年六月二十四日

統監 子爵 寺内正毅

隆熙四年六月二十四日

内閣總理大臣 朴齊純  
臨時署理内務大臣

韓國併合條約

日本國皇帝陛下及韓國皇帝陛下ハ兩國間ノ特殊ニシテ親密ナル關係ヲ願ヒ相互ノ幸福ヲ増進シ東洋ノ平和ヲ永久ニ確保セムコトヲ欲シ此ノ目的ヲ達セムカ爲ニハ韓國ヲ日本帝國ニ併合スルニ如カサルコトヲ確信シ茲ニ兩國間ニ併合條約ヲ締結スルコトニ決シ之カ爲日本國皇帝陛下ハ統監子爵寺內正毅ヲ韓國皇帝陛下ハ內閣總理大臣李完用ヲ各其ノ全權委員ニ任命セリ因テ右全權委員ハ會同協議ノ上左ノ諸條ヲ協定セリ

第一條

韓國皇帝陛下ハ韓國全部ニ關スル一切ノ統治權ヲ完全且永久ニ日本國皇帝陛下ニ讓與ス

第二條

日本國皇帝陛下ハ前條ニ掲ケタル讓與ヲ受諾シ且全然韓國ヲ日本帝國ニ併合スルコトヲ承諾ス

第三條

日本國皇帝陛下ハ韓國皇帝陛下、太皇帝陛下、皇太子殿下並其ノ后妃及後裔ヲシテ各其ノ地位ニ應シ相當ナル尊稱、威嚴及名譽ヲ享有セシメ且之ヲ保持スルニ十分ナル歳費ヲ供給スヘキコトヲ約ス

第四條

日本國皇帝陛下ハ前條以外ノ韓國皇族及其ノ後裔ニ對シ各相當ノ名譽及待遇ヲ享有セシメ且之ヲ維持スルニ必要ナル資金ヲ供與スルコトヲ約ス

第五條

日本國皇帝陛下ハ勳功アル韓人ニシテ特ニ表彰ヲ爲スヲ適當ナリト認メタル者ニ對シ榮爵ヲ授ケ且恩金ヲ與フヘシ

第六條

日本國政府ハ前記併合ノ結果トシテ全然韓國ノ施政ヲ擔任シ同地ニ施行スル法規ヲ遵守スル韓人ノ身体及財産ニ對シ十分ナル保護ヲ與ヘ且其ノ福利ノ増進ヲ圖ルヘシ

第七條

日本國政府ハ誠意忠實ニ新制度ヲ尊重スル韓人ニシテ相當ノ資格アル者ヲ事情ノ許ス限リ韓國ニ於ケル帝國官吏ニ登用スヘシ

第八條

本條約ハ日本國皇帝陛下及韓國皇帝陛下ノ裁可ヲ經タルモノニシテ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

右證據トシテ兩全權委員ハ本條約ニ記名調印スルモノナリ

明治四十三年八月廿二日

統監子爵 寺内正毅

隆熙四年八月二十二日

内閣總理大臣 李完用

別紙第八附録其一

在本邦

英、米、獨、佛、澳、伊、清、白、丁

九ヶ國各大公使、臨時代理及

外交事務官各通

韓國併合ニ關スル件

以書翰啓上致候陳者本月廿二日京城ニ於テ日韓兩國間ニ別紙第一號ノ條約ノ調印ヲ了シ候該條約ハ來ル廿九日ヲ以テ之ヲ公布シ同日ヨリ直ニ之ヲ施行スル筈ニ有之同日以後帝國政府ハ別紙第二號宣言書所擬ノ方針ニ依リ韓國ノ施政ヲ爲スヘク候間右御承知相成度貴國カ韓國ノ條約國タル事實ニ鑑ミ前記條約ノ公布施行ニ先チ右特ニ御通

42

知ニ及ヒ候次第ニ有之候尙右ノ趣ハ貴國駐節帝國代表者ヲシテ貴國政府ニ通告セシムル様取計置候間御含相成度此段申進旁本大臣ハ茲ニ重テ閣下（代理大公使及外交事務官ヘハ貴下）ニ對シ敬意ヲ表シ候 敬具

43

別紙第八附録其一（英文）

Tokio, August 25, 1910.

Monsieur l'Ambassadeur,

On the 22nd of August, a Treaty, copy of which is herewith enclosed (Annex No.1), was concluded at Seoul between Japan and Corea.

That Treaty coming into force from the date of its promulgation which will take place on the 29th of August, the Imperial Government will undertake, after the said date, the government and administration of Corea in accordance with the rules mentioned in the Declaration herewith enclosed (Annex No.2).

In view of the treaty relations actually subsisting between ..... and Corea, I have the honour to convey the above to Your Excellency's knowledge, before the promulgation and coming into force of the said Treaty. I beg to add that necessary measures have been taken to communicate the same to the Government of .... through the Japanese representative at ...

I avail myself etc., etc., etc.

REEL No. 調-0005

0005



附。宣言（第一）

註。本宣言宛先獨、米、澳、洪、白、清、丁、佛、英、伊、露ノ十ヶ國

韓國併合ニ關スル宣言

明治三十八年日韓協約成リテヨリ茲ニ四年有餘其ノ間日韓兩國政府ハ銳意韓國施政ノ改善ニ從事シタリト雖同國現在ノ統治制度ハ尙未々十分ニ公共ノ安寧秩序ヲ保持スルニ足ラス衆民疑懼ノ念ヲ懷キ適膺スル所ヲ知ラサルノ狀アリ韓國ノ靜謐ヲ維持シ韓民ノ福利ヲ増進シ併セテ韓國ニ於ケル外國人ノ安寧ヲ圖ルカ爲ニハ此ノ際現制度ニ對シ根本的ノ改善ヲ加フルノ必要アルコト瞭然タルニ至レリ日韓兩國政府ハ前記ノ必要ニ應シテ現在ノ事態ヲ改良シ且將來ノ安固ニ對シテ完全ナル保障ヲ與フルノ急務ナルヲ認メ日本國皇帝陛下及韓國皇帝陛下ノ承認ヲ經兩國全權委員ヲシテ一ノ條約ヲ締結セシ

メ全然韓國ヲ日本帝國ニ併合スルコトトナセリ

該條約ハ八月二十九日ヲ以テ之ヲ公布シ同日ヨリ直ニ之ヲ施行スヘク日本帝國政府ハ同條約ノ結果朝鮮ニ關スル統治ノ全部ヲ擔當スルコトトナレルヲ以テ茲ニ左ノ方針ニ依リ外國人及外國貿易ニ關スル事項ヲ處理スヘキコトヲ表明ス

一韓國ト列國トノ條約ハ當然無効ニ歸シ日本國ト列國トノ現行條約ハ其ノ適用シ得ル限り朝鮮ニ適用セラレヘシ

朝鮮ニ在留スル諸外國人ハ日本法權ノ下ニ於テ事情ノ許ス限り日本内地ニ於ケルト同一ノ權利及特典ヲ享有シ且其ノ適法ナル既得權ノ保護ヲ受クヘシ

日本帝國政府ハ併合條約施行ノ際現ニ朝鮮ニ於ケル外國領事裁判

所ニ繫屬スル事件ハ最終ノ決定ニ至ル迄其ノ裁判ヲ續行セシムル  
コトヲ承諾スヘシ

ニ日本帝國政府ハ從來ノ條約ニ關係ナク今後十年間朝鮮ヨリ外國ニ  
輸出シ又ハ外國ヨリ朝鮮ニ輸入スル貨物及朝鮮開港ニ入ル外國船  
舶ニ對シ現在ト同率ノ輸出入税及噸税ヲ課スヘシ

朝鮮ヨリ日本ニ移出シ又ハ日本ヨリ朝鮮ニ移入スル貨物及朝鮮開  
港ニ入ル日本船舶モ亦今後十年間前項ノ貨物及船舶ニ對スルト同  
率ノ課税ヲ受クルモノトス

三日本帝國政府ハ今後十年間日本國トノ條約國ノ船舶ニ對シ朝鮮開  
港間及朝鮮開港ト日本開港間ノ沿岸貿易ニ從事スルヲ許スヘシ  
四從來ノ開港場ハ馬山浦ヲ除クノ外舊ニ依リ之ヲ開港トナシ更ニ新  
47

義州ヲモ開港トシ内外船舶ノ出入及之ニ依ル貨物ノ輸出入ヲ許ス  
ヘシ

宣  
言  
(  
第  
一  
)

Declaration attached to the Notice of Annexation forwarded to the Governments of Germany, the United States of America, Austria-Hungary, Belgium, China, Denmark, France, Great Britain, Italy and Russia.

Notwithstanding the earnest and laborious work of reforms in the administration of Korea, in which the Governments of Japan and Korea have been engaged for more than four years since the conclusion of the Agreement of 1905, the existing system of government in that country has not proved entirely equal to the duty of preserving public order and tranquillity, and in addition a spirit of suspicion and misgiving dominates the whole Peninsula. In order to maintain peace and stability in Korea, to promote the prosperity and welfare of Koreans, and at the same time to ensure the safety and repose of foreign residents, it has been made abundantly clear that fundamental changes in the actual régime of government are absolutely essential.

The Governments of Japan and Korea, being convinced of the urgent necessity of introducing reforms responsive

to the requirements of the situation, and of furnishing sufficient guarantees for the future, have, with the approval of His Majesty the Emperor of Japan and His Majesty the Emperor of Korea, concluded, through Their respective Plenipotentiaries, a Treaty providing for the complete annexation of Korea to the Empire of Japan.

By virtue of that important Act which shall take effect on its promulgation on the 29th August, the Imperial Government of Japan undertake the entire government and administration of Korea, and they hereby declare that the matters relating to foreigners and foreign trade in Korea shall be conducted in accordance with the following rules:

(1) The Treaties hitherto concluded by Korea with foreign Powers ceasing to be operative, Japan's existing Treaties will, so far as practicable, be applied to Korea.

Foreigners resident in Korea will, so far as conditions permit, enjoy the same rights and immunities as in Japan proper, and the protection of their legally acquired

acquired rights, subject in all cases to the jurisdiction of Japan.

The Imperial Government of Japan are ready to consent that the jurisdiction in respect of cases actually pending in any foreign Consular Courts in Korea at the time the Treaty of Annexation takes effect shall remain in such Courts until final decision.

(2) Independently of any conventional engagements formerly existing on the subject, the Imperial Government of Japan will, for a period of ten years, levy upon goods imported into Korea from foreign countries or exported from Korea to foreign countries, and upon foreign vessels entering any of the open ports of Korea, the same import or export duties and the same tonnage dues as under the existing schedules.

The same import or export duties and tonnage dues as those to be levied upon the aforesaid goods and vessels will also, for a period of ten years, be applied in respect of goods imported into Korea from Japan or exported from Korea to Japan, and Japanese vessels entering any of  
the

the open ports of Korea.

(3) The Imperial Government of Japan will also permit, for a period of ten years, vessels under the flags of Powers having Treaties with Japan, to engage in the coasting trade between the open ports of Korea, and between those ports and any open ports of Japan.

(4) The existing open ports of Korea, with the exception of Masampo, will be continued as open ports and, in addition, Shin-Wiju will be newly opened, so that vessels, foreign as well as Japanese, will there be admitted and goods may be imported into and exported from those ports.

別紙第八附録其二

在本邦

西、歐、瑞典、瑞西、葡、

許、墨、伯、智、暹、

十ヶ國各公使及臨時代理公使各通

韓國併合ニ關スル件

以事翰致啓上候陳者本月二十二日京城ニ於テ日韓兩使間ニ別紙第一  
號ノ條約ノ調印ヲ了シ候處該條約ハ本日ヲ以テ之ヲ公布シ則日ヨリ  
施行スル次第ニ有之又帝敕ト貴殿トノ條約ハ別紙第二號宣旨書所掲  
ノ通今後適用シ得ル限リ朝鮮ニ適用セラルヘク候間御承知置相成度  
尙右ハ貴殿駐劄帝國代表者ヲシテ貴殿政府ヘ通告セシムル様取計置  
候間御舍相成度此段申進旁本大臣ハ茲ニ重テ閣下ニ(代理公使ヘハ

貴下)ニ對シ敬意ヲ表シ候 敬具

別紙第八附録第二(英文)

Tokio, August 29, 1910.

Monsieur le Ministre,

On the 22nd of August, a Treaty, copy of which is herewith enclosed (Annex No. 1), was concluded at Seoul between Japan and Korea. The said Treaty comes into force from the date of its promulgation which takes place today, and the treaty existing between Japan and ..... will henceforth be applied, so far as possible, to Korea, conformably with the Declaration herewith enclosed (Annex 2).

I have the honour to convey the above to Your Excellency's knowledge, and to add that the necessary measures have been taken to communicate the same to the Government of ..... through the Japanese representative at .....

I avail myself etc., etc., etc.

REF No. 調-0005

附。宣言（第二）

註。本宣言宛先

アルゼンチン、伯、ヂリ、コロンビア、西、希、墨、諸、國、  
ペルー、葡、シヤム、スニール、ニール、  
ノ十四ヶ國

韓國併合ニ關スル宣言

明治四十三年八月二十二日日本國ト韓國トノ間ニ締結セラレタル條  
約ニ依リ韓國ハ日本國ニ併合セラレ本日ヨリ日本管轄ノ一部ヲ成ス  
コトトナレリ爾今日本國ト列國トノ現行條約ハ其ノ適用シ得ル限リ  
朝鮮ニ適用セラレヘク該現行條約ヲ有スル列國ノ臣民又ハ人民ハ朝  
鮮ニ於テ事情ノ許ス限り日本内地ニ於ケルト同一ノ權利及特典ヲ享  
有スヘシ

Declaration attached to the Notice of Annexation forwarded to the Governments of Argentine, Brazil, Chile, Columbia, Spain, Greece, Mexico, Norway, Holland, Peru, Portugal, Siam, Sweden and Switzerland.

By virtue of a Treaty concluded between Japan and Korea, dated the 22nd August, 1910, Korea has been annexed to Japan and from this date forms an integral part of the Empire of Japan. Japan's existing Treaties will so far as practicable, be applied to Korea, and the subjects and citizens of the Powers having such existing Treaties will, so far as conditions permit, enjoy in Korea the same rights and immunities as in Japan proper.

Foreign Office,  
August 3, 1910.

Your Excellency:-

You were good enough to communicate to me on the 19th ultimo the intentions of the Japanese Government in regard to the treatment of the economic interests of Powers who had Treaties with Korea when the moment arrived for the annexation of that country to Japan.

His Majesty's Government have given careful consideration to your Excellency's communication, and in reply I have the honour to offer the following observations.

With regard to the first point on which you indicated that your Government are prepared to make a Declaration, His Majesty's Government learn with satisfaction that the import and export duties at Korean ports and the tonnage duties on shipping would be maintained at existing rates for the present. They note that this declaration is intended to cover imports from and exports to Japan as well as imports from and exports to other countries. They would however be very glad to learn how long the present Korean Tariff would remain in force, and they venture to suggest that the precedent afforded by the United States-Spanish

Treaty



Treaty should be followed, which gave Spain a period of ten years during which differentiation in favour of the United States could not be introduced in the Phillipines, a provision which has been extended in practice to all other countries than Spain.

It is assumed that by the undertaking to be given by the Japanese Government, the Japanese Tobacco monopoly will not extend to Korea.

As regards the Customs treatment of Korean goods imported into Japan, His Majesty's Government also assume that such provisions as may be made for equality of treatment, for a definite period, of Japanese and foreign trade with Korea would be applicable also to Korean and foreign trade with Japan.

Passing to the second point, that "the existing open ports of Korea would be maintained as such" except Masampho and that in addition, Wiju would be opened, I am informed that Shinwiju appears to be already open in practice. His Majesty's Government would accordingly invite the Japanese Government to declare not only this but some other port also open to foreign trade.

As

As regards the third point, His Majesty's Government trust that the period for which the coasting trade between the open port of Corea and the trade between Korean and Japanese ports would be allowed to foreign shipping would be at least as long as that for which customs differentiation is to be excluded.

A further matter to which the attention of His Majesty's Government has recently been called is the protection of British trade marks in Corea.

There exists an informal understanding whereby the Japanese Authorities do not accept for registration in Corea trade marks which are similar to samples of British marks lodged by the Commercial Attaché to His Majesty's Embassy at Tokio with the Korean Patent Bureau at Seoul and its branch at Tokio. It is, in the opinion of His Majesty's Government, very desirable that all marks registered either in the United Kingdom, Hongkong or Japan, of which samples have been so lodged, either directly or indirectly, shall, on the settlement of the annexation question, be duly registered, without charge (as in the case of American marks) and entitled to the protection of the Japanese law accordingly.

The

The foregoing observations deal briefly with the commercial aspect, so far as the United Kingdom is concerned, of the proposed annexation. There are, however, one or two other points, such as the question of the foreign settlement at Chemulpò, &c., on which I may have to address Your Excellency further.

I have the honour to be, with the highest consideration,

Your Excellency's most obedient,  
humble servant,

Signed: W. Langley  
(Sir Edward Grey)